

講義名	現代世界史				授業形態	
担当教員	小野 達哉	開講期・曜日・時限		後期 月曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生	ナンバリング
主題と概要						
第一次世界大戦後から現在にいたるまでの20世紀世界史について概説する。20世紀とはどのような時代だったのか。また、21世紀とはどのような時代になっていくのか。本授業では、激動の世紀であった20世紀のうち、第一次世界大戦以降の世界の動きを概観するとともに、当該の時代の中心問題について論						
到達目標						
①現代世界史の基本的な流れを理解する。 ②第一次・第二次世界大戦の衝撃、東西冷戦構造、ポスト冷戦などの現代史の基本問題を理解する。 ③20世紀世界史が、現代の世界とどのように結びついているのか、考察できるようになる。						
提出課題						
毎回授業中に小テストを実施する。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
毎回の授業時におこなう小テストで、学生の講義の理解度を確認し、それに必要に応じてコメントを付して返却する。ただし、受講生の人数が多数に上った場合は、テスト返却が不可能になることを予めお断りしておく。						
評価の基準						
毎回授業時の平常点と、期末試験の総合評価とする。毎回授業時の課題提出とは別に、学期末に定期試験を実施するので、その旨注意されたい。						
履修にあたっての注意・助言他						
この講義は予備知識は必要としないので、その点は安心して受講してくれてよい。それでも、受講に不安を感じている学生は、世界史の教科書か参考書を何か1冊、授業に持参してくるとよい。なお、新型コロナウイルス感染症の状況によりシラバスは修正される可能性がある。						
教科書						
.使用しない.						
参考図書						
.なし.						

その他		
講義ではプリント資料を配布する。 参考文献は授業中に随時紹介する。		
授業計画		
1 現代史とは何か 2 第一次世界大戦 3 つかの間の平和 4 ヒトラーの台頭 5 第二次世界大戦 6 冷戦の始まり 7 ソビエトとスターリン 8 ベトナム戦争 9 1968年 10 冷戦終結 11 中華人民共和国 12 ポスト冷戦 13 イスラエルの建国 14 テロとの戦い 15 まとめ		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
【第1回～15回】 ① 予習：前回の講義時に示した授業のキーワードを辞書等で調べておく（120分程度） ② 復習：プリントの見直し、空欄の穴埋めを確認する。返却を受けた小テストを解き直す（120分程度）。		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
全学対象の教養科目であるため、「流通科学大学の学生が卒業時に共通して身に着けておくべき資質・能力」(1)～(5)の習得を目指す。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
授業は学生に随時発問しながら進めるが、特段ICTを活用することはない。		
実務経験の有無及び活用		
なし		
備考		
受講に当たり、予備知識はとくに必要としないが、日本史・アジア史・西洋史など現代史に限らず、歴史全般に興味をもってほしい。		